

2018年度入試直前動向②～国公立大入試のトピックス～

前号に続き来春（2018年度）入試の展望をお伝えする。今号では、国立大入試のトピックスについて取り上げる。

■続く学部・学科の再編

過去2年、国立大で学部・学科の新設・改組が相次いだが、来春はこうした動きが公立大にも広がる。また、再編に伴い、既存の学部・学科で入学定員が変更されている大学もみられる。以下で第3回マーク模試の志望動向を踏まえつつ紹介する。

① 学部の新設

2018年度は富山大（都市デザイン）、広島大（情報科学）、九州大（共創）、琉球大（国際地域創造）、横浜市立大（データサイエンス）、名古屋市立大（総合生命理学）、山陽小野田市立山口東京理科大（薬）などの学部が新設される。これまでみられなかった名称の学部が目立つことが特徴だ。

このうち横浜市立大（データサイエンス）は、人気の系統である情報系の学部だが、募集人員40名に対して志望者は99人と多く集まっているとはいえない状況だ【図表1-A】。

九州大（共創）は、同大で約50年ぶりの新学部設置となるが、募集人員65名に対して志望者は83人と、こちらも決して集まっているとはいえない状況である【図表1-B】。既存の名称の学部でないことが、志望者が集まっていない要因のひとつと考えられるが、国公立大はセンター試験後に志望校変更が行われるため、出願の際に動向が変化する可能性がある。

② 学部・学科の再編を行う大学

学部新設のほか、学部・学科の改組も活発だ【図表2】は、国公立大の2018年度学部再編の例である。首都大東京は都市教養学部を改組し、人文社会、法、経済経営、理の4学部を設置する。受験生にとって分かりやすい組織体系となり、出願者の増加が予想される。

広島大は情報科学部を新設するほか、総合科学部に国際共創学科を新設する。これに伴い、文、法、経済、教育学部では入学定員が減少する。工学部では類の再編が行われ、各類の募集人員に変動がある。また、従来の類別入試とは別に、工学部入学定員の約1割にあたる45名を「工学特別コース」（前期日程）として学部一括で募集を行う。

【図表1】第3回全統マーク模試 新設学部の志望動向例

A：横浜市立大（前期日程）

学部名	学科名	募集人員	志望者数		
			昨年	今年	前年比
データサイエンス	データサイエンス	40	-	99	-
国際総合科学	国際教養学系	85	673	738	110%
	国際都市学系	75	280	311	111%
	経営科学系	180	412	464	113%
	理学系	80	145	154	106%

※国際総合科学部はA方式+B方式で集計

B：九州大（前期日程）

学部名	募集人員	志望者数		
		昨年	今年	前年比
共創	65	-	83	-
法	146	203	199	(98%)
経済	176	321	315	(98%)
芸術工	136	325	375	(115%)

【図表2】国公立大 2018年度学部再編の例

大学	学部	入学定員	募集人員	
			前期日程	後期日程
首都大 東京	人文社会*	200 (+200)	141 (+141)	27 (+27)
	法*	200 (+200)	176 (+176)	
	経済経営*	200 (+200)	130 (+130)	20 (+20)
	理*	200 (+200)	97 (+97)	42 (+42)
	都市教養	(-900)	(-629)	(-106)
	都市環境	255 (+55)	156 (+38)	39 (+9)
	システムデザイン	320 (+50)	195 (+25)	63 (+13)
	健康福祉	195 (-5)	97 (-20)	23 (-5)
	広島	文	130 (-10)	90 (-5)
法		140	110	25 (-5)
法-夜		30 (-10)	10	5
経済		150	110	25
経済-夜		45 (-15)	20 (-7)	5 (-3)
教育		445 (-30)	315 (-11)	55 (-3)
理		230	143	48
工		445 (-45)	398 (-29)	30 (-11)
生物生産		90	65	10
医		240	180	20
歯		93	60	20
薬		60	50	-
総合科学		160 (+30)	110 (+10)	18
情報科学*		80 (+80)	72 (+72)	6 (+6)
香川	法	150	75	35
	法-夜	10		
	経済	240 (-40)	110 (-26)	35 (-10)
	経済-夜	10 (-10)		
	教育	160 (-40)	91 (-20)	27 (-11)
	創造工*	330 (+330)	184 (+184)	49 (+49)
	工	(-260)	(-156)	(-52)
	農	150	105 (+5)	15 (-10)
	医	189 (+20)	114 (+20)	25

※「*」は新設学部

香川大では工学部が改組して創造工学部となる。4学科から1学科7コースへと再編され、学科一括での募集となる。既存の学部では、募集人員の変更が目立つ。経済学部の前期日程では、募集人員26名減少するのに対して志望者は1割近く増加している。センター試験の科目数が減少することもあり、受験生にとっては出願しやすくなるが、厳しい入試が予想される。

③ 公立大では例外的な日程での募集が目立つ

2018年度入試では公立大で例外的な日程での募集を行う大学が目立つ。来春新設される公立小松大は一般入試を分離分割方式ではなく別日程(A日程・B日程)で実施する。他の国公立大とは別に出願することができるため、多くの出願が予想される。同じく、2018年度より公立大学法人化する諏訪東京理科大も、来春は私立大として入試を実施するため、他の国公立大と別に併願が可能だ。第3回全統マーク模試での志望者は前年の3倍近く集まっており、厳しい入試が予想される。

また、2017年度に公立大学法人化して2018年度より公立大として入試を実施する長野大、新設の長野県立大、山陽小野田市立山口東京理科大(薬)は中期日程を実施する。こちらも志望系統が合えば国公立大の3校目の出願先として検討できる。なお、名古屋市立大(総合生命理学)は一般入試を後期日程のみで募集する。変則的な募集のため注意したい。

【図表3】異なる配点パターンの方式を導入する例
秋田大 理工学部(前期日程)の志望動向

コース	方式	募集人員	志望者数		
			昨年	今年	前年比
生命科学	a	20	26	18	(69%)
	b	10	-	1	-
応用化学	a	20	25	15	(60%)
	b	10	-	1	-
材料理工学	a	25	17	10	(59%)
	b	15	-	0	-
数理科学	a	13	16	17	(106%)
電気電子工学	a	21	28	31	(111%)
	b	19	-	2	-
人間情報工学	a	13	33	38	(115%)
	b	3	-	1	-
機械工学	a	14	40	23	(58%)
	b	14	-	2	-
創造生産工学	a	10	12	7	(58%)
	b	4	-	0	-
土木環境工学	a	22	25	29	(116%)
	b	6	-	0	-

■入試の変化と志望動向

① 募集体系の見直し

国公立大では新設・改組以外に、募集体系の見直しを行う動きも目立つ。前述した広島大(工-工学特別コース)、香川大(創造工)では学部・学科一括での募集を行うが、こうした大括り化の動きは工学系の学部を中心に他にもみられる。

その一方で、募集区分を細分化する動きもある。2018年度入試では秋田大(理工-前)が、異なる配点パターンの方式を導入する。センター試験重視のa方式と個別試験重視のb方式の2方式が導入されるが、現時点では志望者のほとんどがa方式に集まっている【図表3】。方式ごとの特徴が十分認知されていないことも理由だろう。

富山大の工学部(前期)では2017年度入試よりa方式(センター試験重視)、b方式(個別試験重視)の2方式での入試を実施しており、2018年度入試では実施学科を拡大する。こちらも現時点では秋田大と同様、a方式に志望者が集まっている。しかし2017年度入試では、2次試験で挽回しようとする受験生がb方式に集中し、志願者が集中した。複数方式が用意されている大学では、受験生は有利なパターンで出願できるとはいえ、センター試験の平均点の変動が極端な動向変化につながることもある。出願時には、河合塾のセンター試験自己採点集計「センター・リサーチ」の状況を参考に慎重に検討してほしい。

② 科目の変更に伴う志望動向の変化

2018年度入試で入試科目を変更する大学もみられるが、こうした変更は志望動向に大きく影響を及ぼす。金沢大(人間社会-経済-前)では2次試験で国語が不要となり、英語と数学の2教科となる。入試科目の負担が軽くなることから、志望者が増加している【図表4】。

一方、千葉大(園芸(食料資源経済除く)-前)では2次試験の数学の範囲がⅡBからⅢBへと変更され、理科の科目数も1科目から2科目に増加する。こちらは入試科目の負担が増すことから、志望者は前年の3分の1まで減少している。

【図表4】金沢大 人間社会学域経済学類(前期日程)
第3回全統マーク模試 志望者分布

